



本日はよくお参り下さいました

さほど雨も降らずに7月28日に梅雨が明けました。蝉しぐれと澄み渡る青空が、夏の雰囲気を感じ上げています。さて、いよいよお祭りまで一週間を切りました。このお祭りは無病息災、災厄消除、身体健全という夏場に弱りがちな私たちの体力を活性化するためのお祭りです。高い気温と湿度に負けぬ体力は、病を寄せ付けぬ最高の盾となります。お祭りと言えばお神輿ですが、このお神輿には八雲大神さまがお乗りになり、町内中を回る、言わば移動式の神社です。威勢よく華やかな神輿渡御は、健康な方はもちろん、病気の方や、自由に外を歩けない方をも、力強く励ましてくれます。例大祭の何よりの魅力は神人和楽。神さまと人間がともに和み楽しむことです。この日ばかりは、この命の尊さに素直に感謝し、みんなできあいいいと、楽しいときを過ごしたいものですね。今月も皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。権禰宜道子



八月

1日・15日 月次祭(つきなみさい)皇室の弥栄と国家の発展、氏子・崇敬者並びに社会の幸福と平和を祈る。

6日・7日久里浜天神社例大祭

6日は13:00~21:00まで境内に模擬店出店予定。
・ポップコーン・ヨーヨー・やきそば・かき氷等

7日立秋この日から旧暦の上では秋に入る

が実際には残暑は厳しく、立春を起点として上り坂にあった平均気温は、立秋の頃、高温のピークに達する。しかし風のそよぎ、雲の色や形に秋の気配も感じられる。

オミナエシ



11日山の日

山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する。

15日終戦記念日戦没者を追悼し、平和を祈念する日。

昭和12年の盧溝橋事件をきっかけに起った日中戦争から太平洋戦争終結までの八年間に、外地での戦闘や、内地での空襲により命を失った人は300万人以上。そのうち民間人は80万人という膨大な犠牲者を出した。

23日処暑暑さがやむの意味から処暑という。涼風が吹きわたる初秋の頃で、暑さもようやくおさまり、綿の花が開き、穀物が実り始め、収穫の候も目前となる。昔からこの頃は二百十日と並び台風襲来の特異日とされており、暴風雨に見舞われることが少なくない。

天神さまの豆知識

― 神様をまつるとは ―

お祭りに対しての考え方をわかりやすく説明している文章を見つけたのでご紹介いたします。「古代の人々にとって自然とは、恵みをもたらしてくれる有り難いものであると同時に、災いをもたらす恐ろしいものであった。未知の計り知れない力を秘めているのが自然であり、このような感覚は現代人よりもはるかに切実に強く持っていたのだろつ。そしてまた人々は生きていく上で直面する避けられない諸問題の解決を偉大な自然に潜む力、すなわち神に願つたに違いない。― 省略 ― 祭りにおける最重要事は、神に喜んでもらうことである。もし不手際などがあつて神を怒らせるようなことになれば、災害や不作などがもたらされるかもしれない。これまでの安寧を感謝し、又この先の安寧を祈願しつつ、神をもてなし、その霊威を高め、やがて祭りは終わる。終われば神はまた元の世界へ帰っていく。そして人々もまた神に約束された日常生活に戻る。人々は祭りを通して神という大いなる命に触れ、明日を生きる力を戴いている。そして同時に祭りをを行う人々の間の絆、ともに生きていく者同士のつながりを確認し、高める機能を果たしてもいたのである。」『すべわかる日本の神々』鎌田東一監修 東京美術発行



お祭り歳時記

久里浜天神社例大祭

平成二十八年八月六日・七日
年に一度の大祭。六日は天満宮祭、湯立神楽、七日は、八雲祭、神輿渡御が行われる。一日目の湯立神楽は、参道に設置したヤマと呼ばれる斎場の中で、神職が神楽舞を奉納する。又、お湯を沸騰させた釜に、御幣を差入れてかき回し、湯花が立つと大吉とされる。さらに笹で湯をかき混ぜ、撒いたものが体につくと、無病息災になるといふ。終盤には、参列者にお菓子を撒くので、お子様も一緒に是非ご参列を。※神楽開始時間の目安は、6日午後三時頃

今月の言葉

「慎」の一字こそ眼なれ。

神に仕には慎にかぎる事也

度会 延佳『陽復記』より

「慎」という字の意味は、「心が欠けることなく隅々までゆき届くこと」だ。神さまに仕える者にとって、「慎」がもっとも重要である。神の御霊は自然万物、個々の人々の心に宿っている。人が他者と接するとき、他者の心に宿る神と接している。人との付き合いは神と対面することと同様だ。心が欠けていては、神の御霊を感じる事ができない。わざわざ「心無い人」を好み、信頼するものはいない。人の輪で気持ちよく生きるために、隅々まで澄んだ心でいたい。

参考文献『神道のことば』武光 誠著
河出書房新社発行